

文芸特集

たくさん作品の中から選ばれた秀作を紹介します。限られた字数の中に織り込まれたさまざまな思いや季節の情緒を味わってください。

一席

散る桜両手に受けて燥ぎいる妻はひと時杖を放せり

実行原 山田 英一

評 降りしきる桜の花びらを、両手に受けて乙女のように燥ぐ奥様の様子が、浮かんできます。桜は日本人にとって特別な花です。「杖を放せり」の結句に、今年の桜に巡り合えた喜びが溢れているように思えます。

老いて尚出来ることあり下校児に渡り切るまでしばし旗振り

領家3 森岡 賢吉

聞こえる難人形のヒソヒソ話今宵は誰の恋ばなならん

川口2 川久保百子

ひと駅に席を譲られその人に席を返してはつり降りる

上青木3 岩崎モト子

日常の暮しの中に母がいる手作り陶器面影浸る

鳩ヶ谷本町4 佐羽みはる

あたたかき老犬の背に手をおけば今日一日の命いとしく

差間 中田 道子

飾られし駒子のマントはみかん色越後湯沢の雪国の宿

領家3 中川 弘子

おつとりとしたもの言いをする人の真似をしてみせつからなわたし

末広3 後藤 和子

夜毎泣くノラ猫愛し出で見れば逃げ腰なれど甘えし声を

赤井1 栗原 正栄

北風に襟立て歩けば良き香り梅綻びて扉内にあり

鳩ヶ谷本町4 町田 君子

俳句

一席

これ以上孤独になれぬしやぼん玉 西川口3 早乙女文子

評 しゃぼん玉は、儂いものであると共に夢のあるものの象徴でもある。空に放たれた瞬間から、しゃぼん玉は、いつ消えてしまうのか不安を抱えている。誰も助けてくれる仲間はいない孤独の極みである。

洗ひ浚ひ語り出したる蜃気楼 上青木1 鈴木 千鶴

たんぼぼの絮吹き渡るドッグラン 本町1 知念 哲夫

あのことは水に流して卒業す 小谷場 宗像とき子

どう生くも最後はひとり諸葛菜 上青木西2 大滝 徳美

颯爽とドアに消ゆるや春裕 芝富士1 小野 隆子

鯛焼を食べつつ歩く先に海 南鳩ヶ谷1 岡野 安代

三行の手紙が最後母の春 北原台1 大木 あい

桜木や人を集めし酒の宴 戸塚鉄町 宮園つみ子

沈丁花子等立ち止まる通学路 小谷場 平 松枝

一粒の葉を逃がし春炬燵 東本郷 豊後 照子

天神の見上ぐ梅林人の波 弥平4 木村恵美子

春障子さしこむ光淡きかな 幸町1 小川 敦子

月食おわり月は光をますばかり 新堀 小澤富美子

一席

美しい物の一つに母の嘘 飯塚2 川瀬伊津子

評 誰もが一つ二つ思い浮かぶ母の嘘。同時に、その裏に隠された優しいおもい出すのではないのでしょうか。家族の絆や愛情が伝わる、心が温まる作品です。

平和だね腹見せ欠伸路上猫 朝日5 堀 晋

お祝いの娘の肩に止まる蝶 上青木4 星野 明美

来し方の面影つむぐ子に生きる 鳩ヶ谷本町3 加藤 レイ

待ちわびた友どのお茶会声掠れ 芝樋ノ爪2 野澤 共子

短歌

川柳

山崎 十生 選

伊藤 真理子 選